

# 北シリアレポート

## 2019年1月中旬

### 項 目次

- 1 用語集
- 2 HTS が Idlib を支配
- 3 トランプ大統領が北東シリアから米軍撤退を発表
- 4 シリアその他の地域の状況
- 5 人道的状況

### 用語集

AOG	反体制派
GoT	トルコ政府
GoS	シリア政府
GoR	ロシア政府
IS	イスラム国
KSA	クルド自治政府
PYD	クルド民主統一党 (YPG の政治団体で Hasaka の「自己統治」政治団体を主導)
PiN	支援を必要とする人々
YPG	クルド人民防衛隊
SDF	シリア民主軍(その殆どがクルド人民防隊(YPG)により構成かつ主導され、凡そ 10%がアラブ族)
SDC	シリア民主評議会 (SDF の政治団体)
SNA	シリア国軍 (トルコの支援を受ける「穏健派」AOG 同盟)
NLF	国民解放戦線(アラビア語で- Jabhat Tahrir Suriya. トルコの支援を受ける「穏健派」AOG 同盟)
HTS	「ハヤト・タハリール・シャム」 Hay'at Tahrir al Sham (「過激派」反体制派同盟。特に abhat al-Nusra 指す)

この文書はジャパン・プラットフォーム内およびその関係者のみの利用に限ります。この文書は、JPF セキュリティアドバイザーの同意なく、再配布することを禁じます。

本レポートの多くがイタリックで表記されています。イタリックで表記のある内容は、推測に基づいていることを意味します。本レポートは北東シリアの現在の状況を記載しているものですが、分析、見解や主張は筆者によるものです。

**免責事項:** この文書の目的は、情報と分析をし、アドバイスを提供することです。ジャパン・プラットフォームは、この文書に基づき、読者がいかなる行動や措置をとった場合でも、責任を負いかねますことご了承ください。

## 1. HTS が Idlib を支配 (Map source <http://syriancivilwarmap.com>)

2019年12月28日から2019年1月10日まで、過激派武装集団 HTS は、Idlib 行政区域、西 Aleppo と北 Homs の各地で、国民解放戦線 (NLF) に対して広範囲に渡る攻撃を開始した。この攻撃は西 Aleppo で開始され、HTS は NLF の連盟武装組織を本拠地から追放した。NLF が南 Idlib の武装組織で西 Aleppo を強化しようと考えていたときに、HTS は Idlib の M5 高速道路の複数の拠点を攻撃した。1月6日には HTS は西 Aleppo を完全に支配した。NLF が解散を拒否したために、両者間の停戦協定は

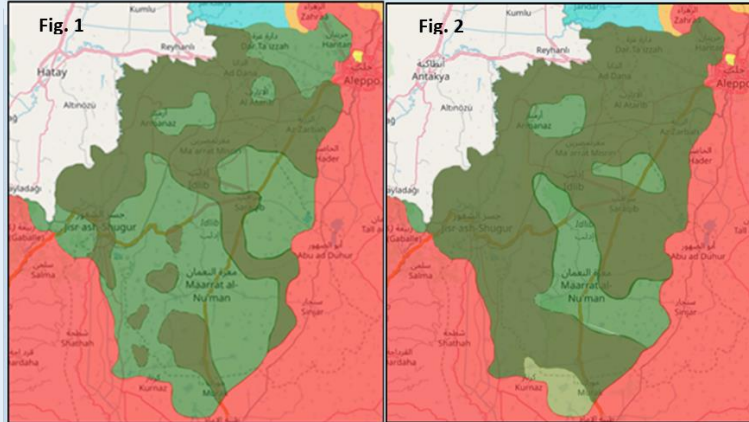


Fig.1 – Approx. HTS and NLF positions prior to 28 Dec 2018 HTS offensive.  
Fig. 2 – Approx. positions on 10 Jan 2019.

● HTS  
● NLF affiliated AOGs

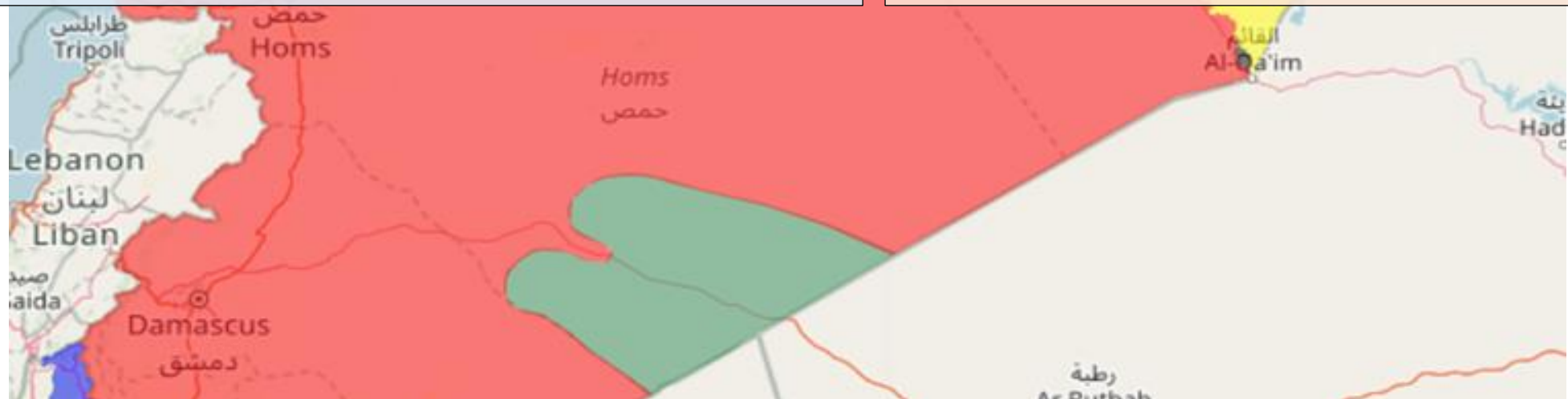
失敗に終わった。HTS はただ地にその他の NLF 連盟組織を中央と南 Idlib で攻撃した。その後三日間で、HTS は NLF 関連組織を打倒することに成功した。いくつかの NLF 組織は Afrin へ撤退し、HTS へ彼らの立場を明け渡すこととなったが、複数の組織は HTS に加わった。1月10日までに HTS はシリア北西部ほぼ全ての主要道路と交差点を支配した。

コメント: NLF はトルコ政府に支援を受けた複数の反対武装組織で構成されているが、トルコは、彼らが、1月9日の HTS による侵略を辞めるよう説得したのはトルコが介入 HTS 攻撃を受けている間は支援することができなかった。報道によるとしたからのようだ。しかしながら、トルコの介入は手遅れでこの効果は控えめであった。おそらく HTS の攻撃はトルコにとって寝耳に水であったか、HTS の攻撃を妨害しないと決めたのだろう。おそらくは前者で、なぜならトルコにとって Idlib を支配することはわずかな利益しかないからだ。トルコの、NLF が HTS の影響なく Idlib を支配するという計画はもはや達成不可能となった。

ロシアの支援を受けたシリア政府の Idlib への攻撃は、益々増加するであろう。HTS は非武装地帯合意や、その他アスタナで行われたいかなる合意には参加しておらず、Idlib のほとんどが支配されたことがシリア政府の攻撃開始の口実を作ってしまった。

Afrin はトルコが支援する別の AOG である、シリア国軍 (SNA) によって支配されている。またトルコは SNA を利用し、Menbij や北東シリアの YPG やクルド自治政府 (KSA) への攻撃を仕掛けようとしている。考えられるトルコにとって利益となる点は、Afrin へ退避した NLF の戦闘員が SNA に参加することで戦闘員が大幅に増えることだ。

コクレイ NGO や現地の NGO によって、NLF の行政機関が HTS 関連の救済政府に統治を引き渡すことが重要である。一部の行政機関は救済政府の管理下に置かれることなく解散したのもあるが、救済政府





## 2. トランプ大統領が北東シリアから米軍撤退を発表

2018年12月19日のトランプ大統領の発表によると、米国は1ヵ月以内にシリア北西部から軍隊を撤退させるとしたが、予想外の事柄で、地域内の地政学リスクが高まった。しかし、その後米国の国務長官や国家安全保障補佐官が、撤退は段階的に行われるべきものであり、米国のSDF支援を再び断言する形でトランプへ反論した。

いずれにせよ、トランプの発表は、中東地域内の主要な当事者たちに、生まれる空白をどう埋められるか検討させることとなった。

トルコ政府は当初、北東シリアのKSAとYPGに対してさらなる攻撃を実施する許可を米国から得たと理解した。トランプ大統領は、トルコのErdogan大統領と電話会談したのちに発表を行ったと伝えられている。しかしながら、トランプの宣言が国務長官や国家安全保障補佐官によって撤回され、其々の対立する好戦的行動も伴い、すでに悪化していた両国の関係に、更に亀裂が入った。2019年1月14日に、トランプとErdogan大統領が2度目の電話会談を実施し、再度事態を反転させた。

報道によると、トランプは米国軍を撤退させることを再確認し、シリアとトルコの国境にある20マイルの深さの「安全地帯」の設立に関して協議をしたと言われている。

ロシア政府は大ぴらに反応を示すことはしなかったが、トランプによる最初の発表をうけて、シリアやイランのカウンターパートと会談を持っていたと報じられている。報道によれば、ここ数週間で、三者は、将来的に、現在SDFが支配している油田が豊富なエリアの奪還するための攻撃するために、南東シリアのEuphrates西岸に軍隊を増強している。「安全地帯」の構想を受けて、ロシアの外相は、シリア政府が北シリアを支配すべきだと述べた。

コメント: シリア政府にとっては、KSAエリアへ戦闘なしに戻る絶好の機会である。しばらくの間、KSAとシリア政府との間で中央支配が戻ることへの懸念を示し、継続的に交渉が行われていたが、現在は、KSAにとって緊急事態であるとして、トルコが脅している。シリア軍が国境沿いのエリアに配備されることになれば、トルコが攻撃を実施することをやめさせることになるだろう。しかし、この状況はKSAにとって交渉の弱い立場に立たせることになり、彼らが何らかの形で自治を維持するという希望を損なわせてしまう。米国のシリア政策は明らかに混乱しており、米国の将来の意図が不明確である。米国軍が北東シリアから撤退することは、間違いなく、ロシア政府によっても主要な目的であり、ロシアに対抗して本地域で大きな勢力を示すこともできる国は他にはないだろう。しかし、米国が総撤退することは現実的ではなく、また、米国がSDFのISとの戦いに支持する形で行っていた米国主導の連合軍空爆も辞する意図があるのかも明らかになっていない。

トルコ軍による攻撃は恐らく次の2箇所になるだろう: Euphrates西部のMenbijと、Euphrates東部のTel Abyad周辺のアラブ主要地域だ。トルコが成功するためには航空の支援が必要で、ロシアがトルコの軍用機がEuphratesの東部上空を許可し、米国がEuphrates上空に航空機を飛ばす許可した場合にのみ実現すると考えられる。しかしながら双方とも現実的ではない。Erdogan大統領は、彼の弁舌の才を持ってしても、事態を進展させるのに難しい立場にいる。これはIdlibで起こった直近の出来事と、トルコが支援しているNLFのHTSへの攻撃の成功が事態を更に難しくさせた。シリア軍を国境エリアに戻すことを許可することはErdoganにとって解決策にならない。トルコ政府は、8年前のシリア政府に対する内戦の開始を支持してしまったからだ。トルコとの国境エリアのシリア側に「安全地帯」を設置するか予想するのは困難だ。しかしながら、ロシアの、米国をトルコから引き離す試みを阻害させることはでき、かつ本地域における米国の影響力は低下する。また、Erdoganにとって、2019年3月31日の地方選挙に向けて成功を収める道筋を与えるだろう。Erdoganとロシア大統領のPutinは1月23日に会談する予定で、PutinはErdoganにIdlibにおけるトルコの厳しい状況を切り抜け、クルド系YPGとシリア政府軍をトルコの国境エリアから撤退させるような計画を提案するだろう。

現在、KSAによって統治されているエリアには、25のINGOと150の現地NGOが活動している。全てのNGOがアメリカ撤退により危険に晒され、本地域の治安を不安性にさせる。戦闘が回避され、シリア政府が本地域の統治に戻ったとしても、INGOと現地のNGOは継続して活動することは難しいであろう。南東シリアで活動するためにダマスカス政府に登録し、かつシリア政権から見て違法に活動している組織はいたとしても非常に少数だ。最近トルコは、KSAの管理エリアで活動しているINGOを敵対視しており、複数の組織をトルコから追放した。

人道的視点からさらなる状況分析を見たい場合は以下のリンクを参照:

[https://www.irinnews.org/analysis/2019/01/16/trump-pullout-plan-leaves-aid-groups-northeast-syria-scrambling?utm\\_source=IRIN+-+the+inside+story+on+emergencies&utm\\_campaign=e9aabd639a-EMAIL\\_CAMPAIGN\\_2018\\_06\\_22\\_11\\_22\\_COPY\\_02&utm\\_medium=email&utm\\_term=0\\_d842d98289-e9aabd639a-75523769](https://www.irinnews.org/analysis/2019/01/16/trump-pullout-plan-leaves-aid-groups-northeast-syria-scrambling?utm_source=IRIN+-+the+inside+story+on+emergencies&utm_campaign=e9aabd639a-EMAIL_CAMPAIGN_2018_06_22_11_22_COPY_02&utm_medium=email&utm_term=0_d842d98289-e9aabd639a-75523769)

### 3. シリアその他の地域の状況 (Map source <http://syriancivilwarmap.com>)

**Menbij** の自爆テロで 4 名のアメリカ人が死亡-  
**2019 年 1 月 16 日**、**Menbiji** 市で発生した **IS** 戦闘員による自爆テロ攻撃で、**19** 人いたうちの **4** 名が殺害された。死亡した **4** 名のうち、**2** 人は米国の兵士で、その他の **2** 名は軍事契約を結ぶ民間人兵士だった。彼らはレストランで食事をとっていた。コメント：本インシデントは米国軍の撤退を遅らせるか、はらまるかのどちらかだ。本インシデントにより、**IS** を打倒したことがトランプの米国軍撤退を決断させた理由にも関わらず、**IS** は打倒されていないことは明

#### SDF を支援するシリア軍とロシア軍

シリア軍とロシア軍隊は、以前 **SDF** によって支配されていた **Menbij** の西部地域を占領し、巡回を始めた。**SDF** は、トルコと **AOG** 関連組織が **Menbij** へ攻撃することを阻止するために、**Moscow** を通じてカイブすることを交渉した。コメント：2017 年にも同様の合意がなされ、**KSA** が統治する東 **Euphrates**、恐らく **Tel Abyad** についても同様の取り決めが行われるだろう。

#### SDF が IS に対する攻撃を再開-

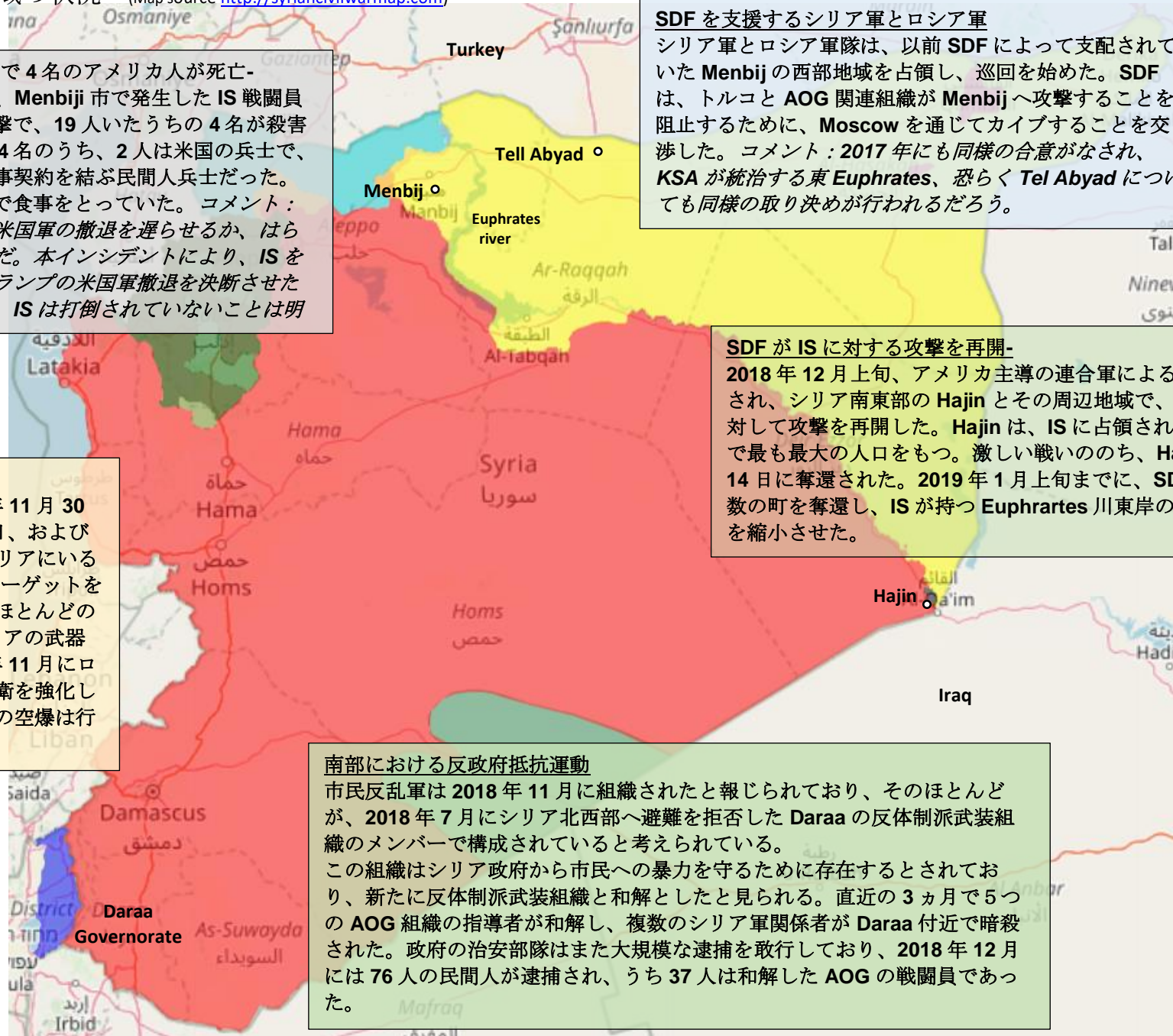
**2018 年 12 月上旬**、アメリカ主導の連合軍による空爆に支援され、シリア南東部の **Hajin** とその周辺地域で、**SDF** は **IS** に対して攻撃を再開した。**Hajin** は、**IS** に占領された地域の中で最も最大の人口をもつ。激しい戦いののち、**Hajin** は **12 月 14 日** に奪還された。**2019 年 1 月上旬** までに、**SDF** は更に複数の町を奪還し、**IS** が持つ **Euphrates** 川東岸の土地や地区を縮小させた。

#### イスラエル軍の空爆

イスラエルは、**2018 年 11 月 30 日**、**2018 年 12 月 26 日**、および **2019 年 1 月 11 日** にシリアにいる **Hezbollah** とイランのターゲットを標的に空爆を行った。ほとんどの標的は **Damascus** エリアの武器倉庫であった。**2018 年 11 月** にロシアがシリア上空の防衛を強化したにも関わらず、全ての空爆は行われた。

#### 南部における反政府抵抗運動

市民反乱軍は **2018 年 11 月** に組織されたと報じられており、そのほとんどが、**2018 年 7 月** にシリア北西部へ避難を拒否した **Daraa** の反体制派武装組織のメンバーで構成されていると考えられている。この組織はシリア政府から市民への暴力を守るために存在するとされており、新たに反体制派武装組織と和解としたと見られる。直近の 3 ヶ月で 5 つの **AOG** 組織の指導者が和解し、複数のシリア軍関係者が **Daraa** 付近で暗殺された。政府の治安部隊はまた大規模な逮捕を敢行しており、**2018 年 12 月** には **76** 人の民間人が逮捕され、うち **37** 人は和解した **AOG** の戦闘員であった。





### 4. 人道的状況

シリアのクライシス：まとめ

- 8年間の戦争
- 命に関わるニーズが増加し続けている
- 1310万人が人道的支援を必要としている
- 200万人はアクセスが困難な地域に居住しており、複数の保護に関わる脅威に晒されている
- 12月18日のIDPの数: 45,224
- IDPの総数: 5,689,095
- 12月18日の帰還民: 48,205
- 2018年の帰還民総計: 1,250,956

#### NFI

越冬支援を必要とする人々の総数: 170万人  
支援提供済みの総計: 585,000人

#### シェルター

越冬支援を必要とする人々の総数: 190万人  
支援提供済みの総計: 50,000人

#### 保護活動

現在、子供が世帯主となる世帯、学校中退、搾取的な児童労働、トラウマケア、身体的負傷や障害、家族の追跡や合流といった脆弱な状態にある子供に関する懸念が広がっている。教育や食料、シェルターや保健サービス、心理社会的、および生計のリスクに晒される子供たちの支援がより必要となっている。特定のニーズを必要とする高齢者や障害を持つ人々に対する専門的もしくは包括的サービスの提供には重大なギャップが存在する。GBVの生存者は基本的サービスを受けられるよう、支援対象としての優先順位をあげなければならない。

#### 主要なドキュメント

<https://www.humanitarianresponse.info/en/operations/stima/infographic/syria-protection-cluster-turkey-response-snapshot-30-november-2018>

シリア IDP の希望調査 - H NAP Thematic Report

<https://www.humanitarianresponse.info/en/operations/>

### IDPS

45,224 this month 5,689,095 in total

#### PRESENT SHELTER TYPES



34%

in rented accommodation



24%

with host families



16%

in self-settled camps

#### HIGHLIGHTS

##### REASON FOR DISPLACEMENT

AVAILABILITY OF BASIC SERVICES 83%

BETTER SECURITY SITUATION 83%

BETTER LIVELIHOOD OPPORTUNITIES 81%

##### TOP PRIORITY NEEDS FOR THE MONTH

LIVELIHOODS 44%

BASIC SERVICES 32%

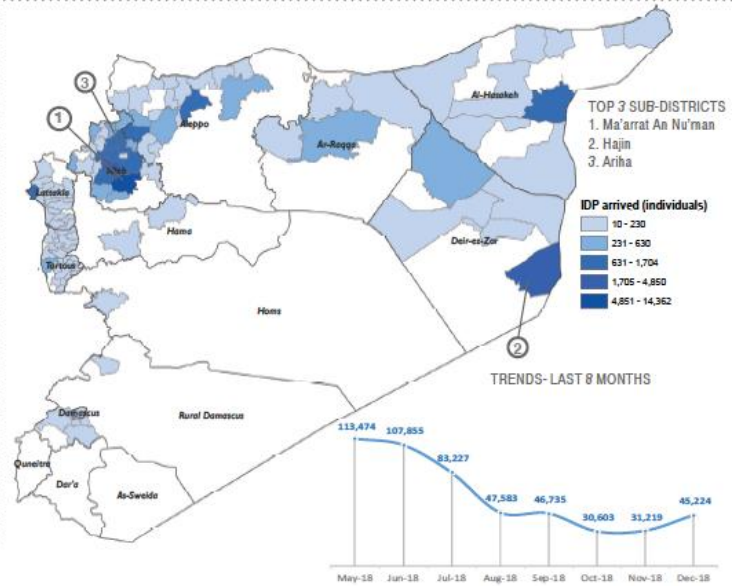
FOOD 28%

##### NUMBER OF DISPLACEMENTS

ONE 33%

TWO 30%

MORE THAN 2 37%



#### IDP の希望調査に関するサマリー

- 避難は 2019 年末まで続く可能性が高い
- 全世帯の 76% (816,322) は、現在の居住地の留まる予定をしており、44%(534,693) は積極的に帰還を計画していない。
- 全世帯の 20% (238,444) は避難先である現在の居住地に溶け込む予定だ。
- 全世帯の 12% (43,185) は 2019 年以降に故郷へ戻る予定である。
- 全世帯の 4% (47,931) シリア国内の第 3 の場所へ移動を予定している。
- 全世帯の 2%(22,786)はシリアを去る意向を示している。

### RETURNEES

48,205 this month 1,250,956 in 2018

#### PRESENT SHELTER TYPES



89%

in their own house



6%

with host families



3%

in rented accommodation

#### HIGHLIGHTS

##### REASON FOR RETURN

BETTER SECURITY IN THE PLACE OF ORIGIN 88%

IMPROVING ECONOMIC SITUATION IN PLACE OF ORIGIN 79%

NEED TO PROTECT ASSETS 75%

##### TOP PRIORITY NEEDS FOR THE MONTH

LIVELIHOODS 52%

BASIC SERVICES 51%

HEALTH 46%

##### DEPARTURE LOCATION

90% Within Syria  
38% from Dar'a

10% From other countries  
43% from Lebanon

